

与論島活性化のために

教育学部 家政専修 1年

0716590051 勝田 愛美

今回、この集中講義を通して実際に与論島を訪れ、島民のみなさんとふれあったり、行政、観光、農業、漁業、文化それぞれに関わる様々な方から現状のお話を直接聞いたりすることができ、充実した実習となった。もともと私は、与論島といえば鹿児島県の最南端に位置するということくらいしか知らなかったのだが、透き通ったエメラルドグリーンの海や風に揺られなびくサトウキビ畑などの美しい景観、あたたかな島民のみなさんの心に触れ、全体的にゆったりとした時間が流れる与論島に大変魅了された。一度だけでなくまたもう一度来たい、もっと沢山の人々に与論島を知って欲しい、そんな風に思える場所であった。しかし知名度はまだまだ低く、与論島を活性化しさらなる発展を図るためには、もっと工夫を凝らした策を講じる必要があると感じた。

ここで与論島の現状を説明すると、与論島の観光客数は1970年代後半の約15万人をピークに多少の増減はあるものの全体的に減少傾向にあり、2010年代の始めには約5万人程度にまで落ち込んでいる。しかし、ここ数年少しではあるが増加傾向がみられる。これはテレビ等に取り上げられた影響であると考えられる。これをふまえ、農業、漁業など目を向けるべきことは他にもあるが、私は観光業に着目し与論島の活性化を図ることが最も有効な策であると考え、以下その具体的な策を述べていこうと思う。

観光業に着目して策を考えると、島内でできることと島外に向けてできることの大きく2つに分けて提案することができる。

まず島内でできることについてである。実際に島を巡ってみて分かったのだが、与論島には看板などの案内図があまり設置されていない。地図を持っていない観光客も少なからずいるということに加え、限られた旅行の時間の中で与論島を満喫してもらうためには、お店の場所や観光スポットなどの位置を示した、他言語も含めた分かりやすい案内図をより多く設置するとよいと思う。そして自転車の整備も挙げられる。与論島はバスで巡るよりも歩いたり自転車を活用したりする方がより島の良さを実感できると思う。よって、貸し出しを目的とした自転車の整備を充実させることができればよいと思う。

次に島外に向けてできることである。私がまず一番に提案したいのがTwitterやFacebookなどのSNSのさらなる活用である。旅行者が旅行先を選んだ理由、それはネット社会の現代、SNSでアップされた動画や画像に惹きつけられたからということが少なくないだろう。それを活かして、SNSの情報を元にやってきた旅行者にちょっとした特典をつけるなどの工

夫をすることにより、さらなる集客を期待することはできないだろうか。そしてご当地キャラクターを作ることも挙げられる。近年、ご当地キャラクターによるPRで有名になる地域は沢山ある。お土産やポスター、旅行誌などにそれを載せることで世間の人々に強く印象づけることができ、経済効果も期待できると思う。また、与論島の子ども達と他の地域に住む子ども達との学校を通しての交流をさらに充実させることも大きな役割を果たすと思う。実際に私が通っていた学校では十島村の学校との交流会があった。そこで島の魅力について知ることができ、いつか訪れてみたいと思うことができた。今の旅行者世代にはもちろんであるが、次世代の旅行者である子ども達に島の魅力を伝えることもまた重要となってくるのではないだろうか。

以上が私の考えた与論島活性化のための策である。与論島はきれいな海だけでなく、自然豊かな大地や伝統的な文化、あたたかな島民のみなさんの心遣いなど魅力あふれる島である。だからこそもっと沢山人々に与論島の素晴らしさを知って欲しいと思うと共に、与論島がさらに活性化していくことを切に願っている。